

建築版	施工段階	設備工事： 地中外壁貫通	電気	○	設備工事 ポイントシート (3-1)
			空調	○	
			衛生	○	
			その他	—	
3-1	地下工事				

地中外壁を貫通するスリーブを設ける場合、地下水が浸入しないよう、躯体とスリーブ材とのすき間、スリーブ材と配管または電線管とのすき間の止水処理が重要です。

重要な性能であり、建築の担当者においても必要な知識の一つです。

ポイント

■施工前の準備

- ・止水方法には鋼管つば付スリーブとスリーブ材に止水材を巻きつけた工法とがあります。なお、鋼管つば付スリーブを使用する場合には、製作期間を考慮しておく必要があります。

■適切な施工

- ・スリーブの位置が構造をはじめ問題が無く、必要な補強があることを確認します。
- ・スリーブに取付ける止水材はオーバーラップして巻きつける必要があります。詳細は止水材メーカーの基準に準じます。

先輩アドバイス

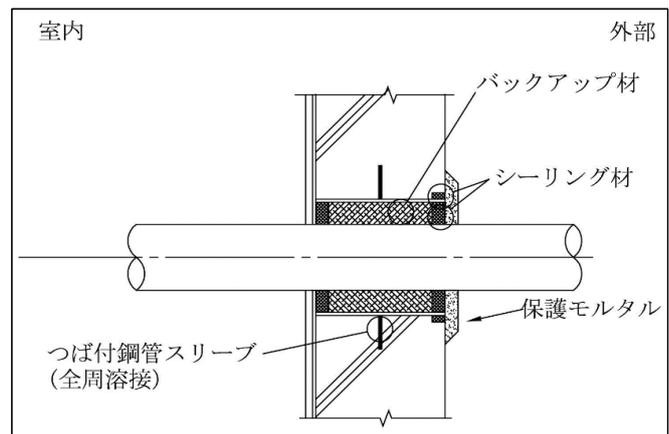
- ・スリーブは、スリーブ材と躯体との間にすき間を設けて、端部にシールが打設できるようにしておきます。
- ・スリーブに巻きつける止水材は基準の厚さを守ります。コンクリート中の水分で膨張し躯体に悪影響を与える場合があります。

チェック項目

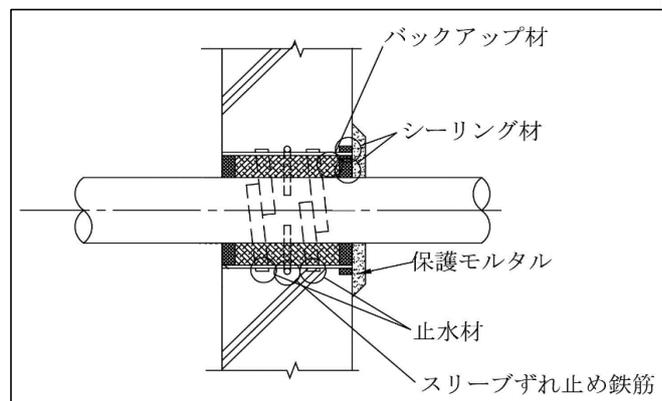
- 鋼管つば付スリーブのつばは全周溶接されていますか。
- スリーブ取付状態の確認ができていますか。
- 止水の確認は十分ですか。
(躯体とスリーブ、スリーブと配管または電線管とのすき間)
- 工程ごとの施工の確認を行い、記録を写真に残せていますか。

失敗すると...

- ・スリーブから地下水が浸水し、地下室の水損等を生じます。
- ・貫通部を手直しするには、外構を再び掘り起こすことになります。



鋼管つば付スリーブ



止水材付スリーブ

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
		—	—	○	—	—	—	—	—
備考	参考文献：						初版発行	2020年12月	
							改訂		